

昔、馬淵川の河口が現在と違っていただけをご存知ですか？
現在の河口は馬淵川放水路と呼ばれ人工的に造られたものです。

放水路とは？

ほうすいりる かいさく※1
放水路とは、河川の途中を開削し、海や他の河川などに放流する人工水路です。

いっすい※2
放水路ができることにより、河川からの溢水による洪水を防ぐことができます。

※1 開削 … 土地を切り開いて道路や運河などを通すこと。
※2 溢水 … 大雨などにより河川の水が溢れ出すこと。

なぜつくられた？

馬淵川と新井田川はそれぞれが海に注ぐ河川でしたが、漂砂ひょうさ※3による前浜の発達により河口付近で馬淵川が湾曲して新井田川と合流し太平洋に注ぐようになりました。合流した河口部は流れが押し合い大雨の度に洪水常襲地帯となったことから、洪水常襲地帯を解消するため、馬淵川放水路を開削することになりました。

※3 漂砂 … 波、潮流のような海に発生する様々な動きによって流動する土砂のこと。河口や港湾などを埋積したり海岸を浸食したりする。



現在の馬淵川放水路



1950年(昭和25年) 馬淵川の放水路工事状況

放水路開削の経緯

- ・1935年(昭和10年)：旧内務省が馬淵川改修計画を策定
- ・1937年(昭和12年)：馬淵川改修事務所が開所
- ・1939年(昭和14年)：新たに放水路を開削し馬淵川と新井田川分離する改修計画に変更
- ・1940年(昭和15年)：放水路開削事業に着手
- ・1950年(昭和25年)：旧馬淵川の締切堤防が完成し、放水路へ通水開始
- ・1955年(昭和30年)：床固めや樋門、橋梁などの工事が完成し、馬淵川放水路が全面完工



昭和22年撮影



平成25年撮影

馬淵川放水路整備の結果、形成された河口付近の馬淵川と新井田川の三角地帯は洪水常襲地帯から解消され、八戸臨海工業地域として八戸市発展の礎となりました。

八戸市を一望できるのはこちら！

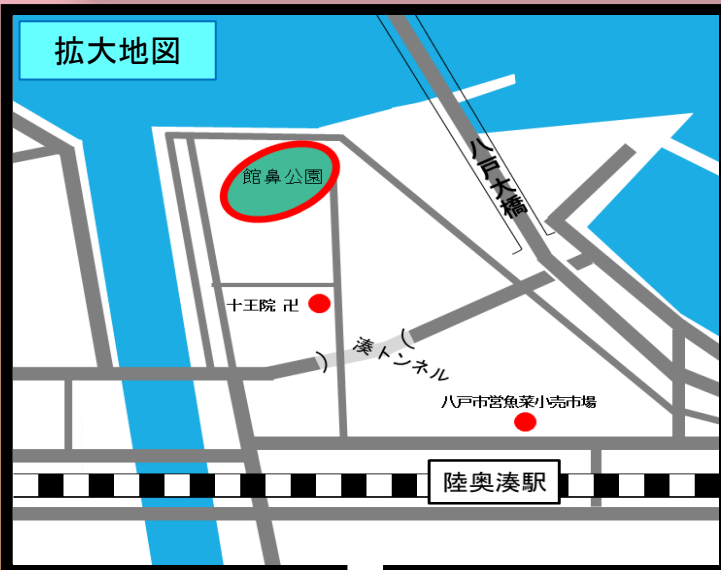
《グレットタワーみなと》

平成19年4月、館鼻公園敷地内に完成した展望台「グレットタワーみなと」。名前の由来は八戸市内をぐれっと見渡せるから。『ぐれっと』とは南部弁で「ぜんぶ」という意味です。グレットタワーに登って八戸市内全体をぐれーっと見渡してみませんか？



グレットタワーから見た旧馬淵川

拡大地図



《館鼻公園》



新井田川河口の高台にある公園で、毎年桜の開花を決める標準木があります。お花見広場や見晴台もあり、日中散策をしたり、夜になると河口からの夜景を眺めたりすることができます。遊具や健康遊具、休憩所などの施設が充実しているので、どなたでも楽しむことができます。令和元年7月には八戸市みなと体験学習館（愛称「みなっ知」）がオープンし、湊地域の歴史や文化を知ることができます。また、東日本大震災の「震災伝承館」としても登録されています。



《アクセス》

- ・JR八戸線『陸奥湊駅』下車より徒歩約10分
- ・八戸自動車道八戸ICより車約20分
- ・八戸市営バス 鮫線(白銀経由)湊本町下車より徒歩約10分、鮫線(上柳町経由)・岬台団地線上柳町下車より徒歩約15分



八戸市 桜の標準木

〒039-1103 青森県八戸市長苗代二丁目5番8号

<http://www.thr.mlitt.go.jp/aomori/syutu/hachikawa/>

TEL:0178-28-2626

E-mail:thr-aomori01@mlitt.go.jp

発行者:国土交通省 青森河川国道事務所 八戸出張所

事務所SNSは
こちら→



青森河川国道
事務所Twitter



青森河川国道
事務所HP



八戸出張所
HP